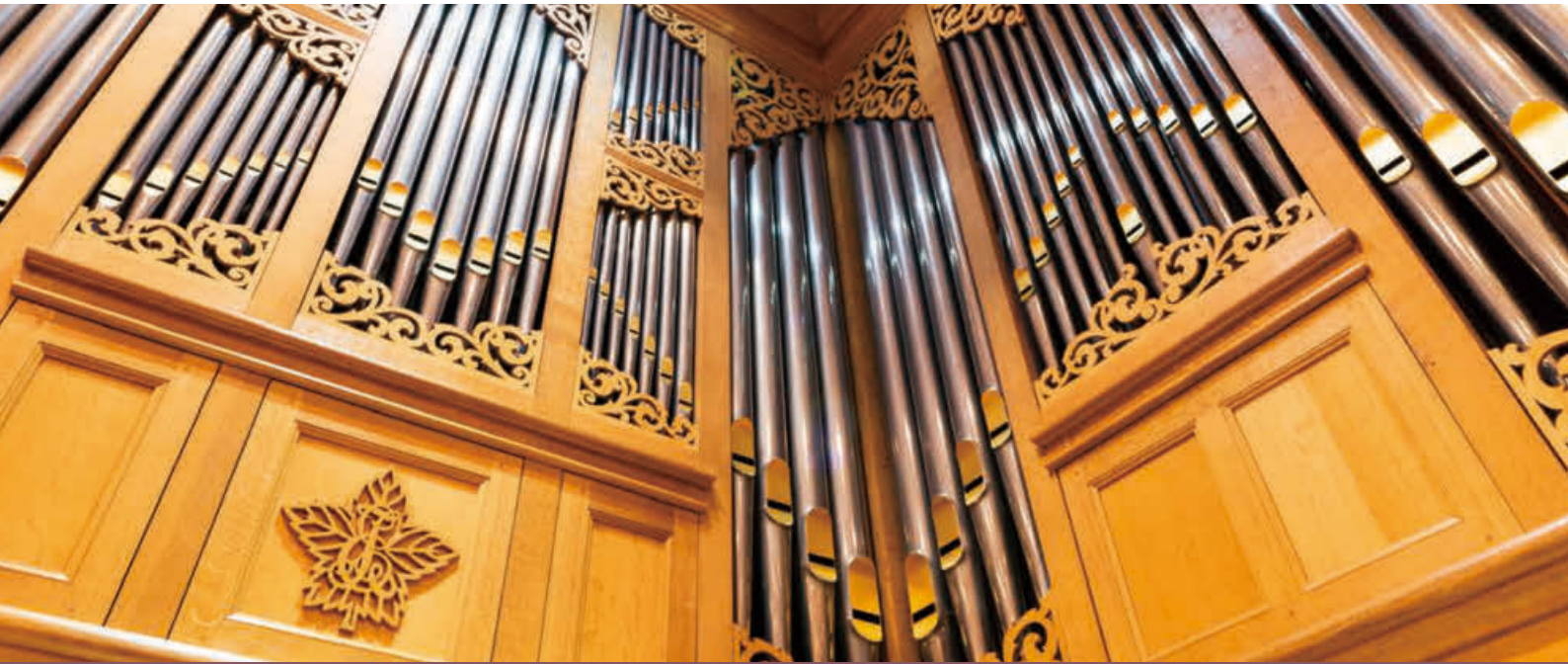


# 楓園

ISSUE  
2023 6/1

96

FÛEN [フウエン]  
Toyo Eiwa Jogakuin  
Public Relations Report



[特集]

## 祈りの時間と音の記憶

—「敬神奉仕」の心を育むパイプオルガンの音色—



東洋英和女学院  
東洋英和楓の会

# 祈りの時間と音の記憶

## —「敬神奉仕」の心を育むパイプオルガンの音色—

小学部、中高部、大学にそれぞれ設置されたパイプオルガンの音色は東洋英和の日常を彩ってきました。それらの美しい音の記憶は子どもたちの心にどのような影響を与えているのでしょうか。

### 聖書の言葉

「いと高きところには栄光、神にあり、  
地には平和、御心に適う人にあり。」

(ルカによる福音書 第2章 14節)

バッハは自身が作曲して書いた楽譜の最後に S.D.G. と書きました。「神にのみ栄光あれ」の意味です。東洋英和女学院はカナダメソジスト教会の宣教師によって建てられましたが、メソジスト教会の創始者となった18世紀イギリスのジョン・ウェスレーは、弟チャールズと共に民衆に讃美歌を教え、その心に神様の愛を届けました。パイプオルガンの奏楽で歌う讃美歌によって、園児・児童・生徒・学生・院生は神様の愛を深く心に刻み、神を敬い、人に仕える人へと成長していきます。

学院理事 野村 稔 (鳥居坂教会牧師・中高部聖書科非常勤講師)

## Contents

表紙写真：小学部のパイプオルガン

- P01 **【特集】**  
祈りの時間と音の記憶  
—「敬神奉仕」の心を育むパイプオルガンの音色—  
*From the Garden of Kaede*
- P09 楓の園から [学院 NEWS]

- P15 *Cartmell's Prayer* [宗教教育委員会]
- P17 教員紹介
- P19 学院人事
- P21 東洋英和楓の会

「楓園」について皆様のお声を聞かせてください。



「楓園」に掲載している写真には、コロナ禍以前に撮影されたものも含まれています。

パイプオルガンがある日常



休み時間には子どもたちが教室にあるオルガンの周りに集まります



小学部のパイプオルガン。2006年2月完成。  
オランダのライル社製

「東洋英和のパイプオルガンと心の教育インタビュー」

小学部教頭 村松 時子 先生

子どもたちの祈りの心を育む  
パイプオルガンの音色

小学部では、講堂で行う全校礼拝の時間をとても大切にしています。子どもたちが講堂に近づくと、パイプオルガンでの前奏が聴こえ始めます。礼拝が始まってからも、讃美歌を歌うとき、最後の黙とうをして教室に静かに戻っていくとき、子どもたちを導くようにパイプオルガンの音色が鳴っています。普段は元気いっばいに走り回っている子どもたちですが、先生の声かけがなくても静まり、神様に心を向けることができます。入学間もない1年生でもごく自然に礼拝をささげられるのは、パイプオルガンの音色からも子どもなりに何かを感じ取っているからではないでしょうか。

よって、歌う子どもたちも感情移入ができる。キリスト教への信仰の思いも育まれているのではないかと感じておられるようです。オルガン科を指導されている山口眞理子先生は、「子どもたちが日常的に接する音がスピーカーやイヤホンを通すものが多くなりつつあるなか、楽器本来の音を聴く機会は重要です」とおっしゃいます。私自身も、成長著しい小学部の6年間において、パイプオルガンの生の音を日常的に聴く環境は、子どもたちの感性を育むうえで大きな意味を持つと考えています。ここ数年、全校の児童が集まるの礼拝が難しい状況でしたが、昨年度の後期より再開することができ感慨深く思っています。東洋英和のキリスト教教育において、パイプオルガンは重要な役割を果たしています。これからも教職員、学院関係者の方々と力を合わせて、美しい音色を守ってまいります。

「敬神奉仕」の心を育むパイプオルガンの音色

祈りの時間と音の記憶

MESSAGE



小学部時代

私は幼稚園から東洋英和に通いましたが、記憶に残る最初のパイプオルガンの音色は小学部の礼拝奏楽です。楽器として興味を持ったのは4年生から参加した聖歌隊で、演奏に間近に接する機会が増え、「一度でいいから、この未知の楽器を弾いてみたい」と思いました。実際に触れたのは6年生の課外活動（オルガン科）で、足鍵盤を弾いた時の高揚感と、「莉子ちゃん足は足のペダルが上手ね」と先生に褒められた嬉しさをよく覚えています。



内田 莉子

Story ①

パイプオルガンと東洋英和での日々

～出会いは小学部の時～

高等部を卒業後、東京藝術大学音楽学部のオルガン科で学ぶ内田莉子さん。パイプオルガンにまつわる思い出を紐解いてもらいました。

## 中高部

### パイプオルガンがある日常

中高部のパイプオルガン。  
1997年6月完成。ドイツのフィッシャー+クレマー一社製



創立記念式典では心をこめて校歌を歌いました



課外教室オルガン科のレッスン



朝の音楽礼拝では、美しい歌声とパイプオルガンの演奏が大講堂に響き、ともに神様を賛美する時を持つことができます

## MESSAGE

内田 莉子

Story ②

パイプオルガンと  
東洋英和での日々

～憧れの礼拝奏楽  
聴く側から弾く側へ～



中高部時代

中高部では高等部の3年間オルガン科に所属し、礼拝奏楽も経験しました。中高部の大講堂はパイプオルガンが上の階にあり、奏者の耳には下の階の歌声が遅れて聞こえるという特徴があります。私のテンポが遅れると歌も遅れてしまうため、「この讚美歌は私にかかっている」という緊張感を抱きながら弾いていました。また生徒が入退場する時の曲は、入退場が終わるタイミングで演奏を終える必要があります。下の階の様子をモニターでチェックしながら弾かなければならないので、慣れないうちは苦勞しました。

私は幼稚園の時からピアノ科にもお世話になり、真剣に打ち込んでいたので、ピアノの道に進むか、オルガンの道に進むか、最後まで迷いました。どちらの楽器も大好きで、それぞれ違った良さがある

東洋英和のパイプオルガンと心の教育インタビュー



およそ1カ月に1回、クラス礼拝が守られています



クラス礼拝ではオルガンの演奏も生徒が担当します。このアンティークなオルガンは卒業生の寄贈品です



高等部1年

上尾崎 日菜子さん

心を癒やし元気をくれる  
オルガンの深く澄んだ音色

初めてパイプオルガンの音色を聴いたのは幼稚園の時。通っていた園の園長先生に連れて行っていたいた東京カテドラル

聖マリア大聖堂の音色です。

東洋英和の小学部に入学すると、礼拝や季節の行事でパイプオルガンの音色を聴くことが日常になりました。小学部は各教室にオルガンがあるので、友だちは左手、私は右手を担当して讃美歌310番『しずけいりの』をよ〜緒に弾きました。この曲を聴くと、当時の楽しい情景がよみがえってきます。

中学部の入学式はコロナ禍で延期となり、パイプオルガンの音色をなかなか聴くことができ

ませんでした。約3カ月ぶりに、天井から音が降り注ぐような大講堂の豊かな響きに包まれた時、外出もままならなかった不慣れた生活から少し解放されたような気持ちになりました。

自宅リモート授業を受けていた時は、両親の影響でファンになった松任谷由実（ユーマン）さんの『翳りゆく部屋』に、東京カテドラル聖マリア大聖堂のパイプオルガンが使われていることを知り、ファンのリクエストとエピソードをもとに50曲を

選ぶ、50周年記念ベストアルバムの企画に応募しました。私のリクエストとエピソードが採用された時は天にも昇る心地がしました。

私がパイプオルガンを好きな理由は、音色を聴くと、友だちや先生との楽しい時間を思い出すことができるからです。その日あった悲しい出来事を忘れることができ、「またがんばろう」という元気を与えてくれるオルガンの音色は、私の生活になくてはならないものです。

りますが、空間に自分の音が豊かに響く気持ち良さや、本物の楽器に触れられる東洋英和の環境を生かせるのはオルガンであることが決め手になりました。

また私にとって重要だったのは、小学部、中高部の2つのオルガンに触れられたことです。一口にパイプオルガンといってもさまざまな様式があり、サイズや外観だけでなく、音色や響きも全く異なります。実は楽器が設置されている場所も重要で、小学部のパイプオルガンは舞台の横にあり、席によっては讃美歌を歌いながら足鍵盤の様子を見ることができたのは大きかったです。足鍵盤の存在を知らない人は意外に多いですが、振り返ってみると、ピアノにはない足鍵盤に魅力を感じたことがオルガンを好きになるきっかけだったように思います。

この4月から東京藝術大学音楽学部オルガン科の3年生となり、学内外で演奏する機会が多くなります。2年生までは演奏する先輩のアシスタントとして、譜めくりなどを担当しながら多くのことを学びましたが、今度は自分が演奏する立場になることにワクワクしています。将来はオルガンの本場であるヨーロッパでさらに知識や経験を積み、オルガニストとして見聞を広げていきたいです。



中部のパイプオルガンと現在の内田さん

祈りの時間と音の記憶  
「敬神奉仕」の心を育むパイプオルガンの音色

東洋英和出身のオルガニスト4名による座談会を開催。  
ご自身とオルガンとの出会いや、キリスト教教育における  
パイプオルガンの役割について語っていただきました。

### なぜオルガンの道へ？ それぞれの原点

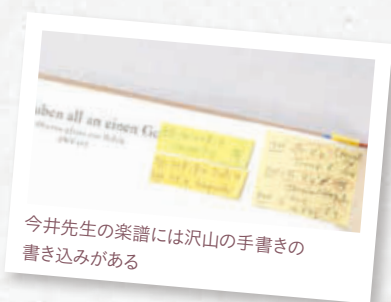
**内田** 私は幼稚園から東洋英和にお世話になり、小学部から日常的にパイプオルガンを聴く環境に恵まれました。中高部の時は課外教室のオルガン科に入るチャンスがなかなか巡ってこず、担当の武田ゆり先生に「私の順番はまだ回ってきませんか？」と確かめに行くほど、パイプオルガンを弾きたい気持ちが強かったです（内田さんの詳しいストーリーは02〜04ページの下部参照）。

**三原** 私の時はオルガン科に入るのはそこまで難しくなく、中高部の6年間所属しました。パイプオルガンとの出会いは幼いころから通っていた教会で、「ピアノを弾ける私が、いざれ弾くんだろうな」と思っていました。演奏会という形で初めて聴いたのは、新宿文化センターで行わ

れた中高部にパイプオルガンを導入するためのチャリティーコンサートです。演奏者は今日いらっしやる今井先生で、目まぐるしく動く足（足鍵盤）と演奏に圧倒されたことを覚えていています。

**武田** 私が中学部に入った時はまだパイプオルガンはなく、礼拝はヤマハの電子オルガンを使っていました。初めてパイプオルガンの音色を聴いたのは、中学3年生の時に母に連れられて行った聖イグナチオ教会で行われていたコンサートです。当時はピアノを習っていましたが、将来の進路を考えるあたり、「オルガンならできるかもしれない」と可能性を感じて、先生に付いて習うことになりました。その後、高校3年生の時に河野和雄先生が中高部に着任され、私が音大のオルガン科を受けると知り、お昼のコンサートを企画するなど発表の場をつくってくださいました。

今井先生の楽譜。再装丁は、教員たちが還暦の祝いにプレゼントしてくれたもの



**今井** 私も、パイプオルガンがなかった時代の卒業生です。中学部の時に河野先生が着任され、礼拝で多彩な音楽を聴かせてくださったことがオルガンに興味を持つきっかけです。今はもうありませんが、先生が

オルガン同好会とリコーダー同好会を創設された時も迷わず参加しました。パイプオルガンに初めて触れたのは、中学2年生の夏休みに河野先生と同好会のみなで行ったドイツ語福音教会で、しばらくしてキリスト教音楽学校（現キリスト教音楽院）の夜学でオルガンを習いはじめました。といっても、高等部に入ると生徒会、YWCA、新聞部の活動に熱を入れていたので、河野先生にオルガンの道に進むと伝えた時は、それはもう驚かれました。

### 礼拝音楽における オルガニストの役割とは

**三原** 礼拝音楽におけるオルガニストの役割は、礼拝の進行を妨げず、礼拝の内容に沿った演奏をすることだと思います。私が心掛けているのは、牧師先生が「アーメン」と唱えたあとの間の取り方や、場の雰囲気



三原 麻里先生

東京藝術大学音楽学部オルガン科および同大学院修了。2012年、第23回シャルトル国際オルガンコンクールで優勝。東洋英和女学院大学生涯学習センター講師。



武田 ゆり先生

国立音楽大学オルガン科卒業。中学部高等部音楽科教諭(1994～2021)、現在に至るまで合唱部、オルガン科を指導。2018年より学院オルガニスト。



内田 莉子さん

幼稚園から高等部まで東洋英和で学ぶ。現在、東京藝術大学音楽学部オルガン科3年に在籍中。



今井 奈緒子先生

東京藝術大学、ドイツ・フライブルク音楽大学オルガン科卒業。国内外での演奏活動、録音などを行う。現在、東北学院大学教養学部教授、大学オルガニスト。

に合わせた演奏です。用意していた楽曲が礼拝説教とあまりにもかけ離れている場合は、その場で差し替えることもあります。

**今井** 私は、霊南坂教会の牧師先生がおっしゃった「オルガニストは第二の司会者である」という言葉を基本姿勢にしています。現在、東北学院大学のオルガニストとして礼拝演奏をしています。許される範囲内で即興演奏を入れたり、自由に、音楽と礼拝が一体となるような演奏を心掛けています。

**武田** 私が担当する中高部の演奏においては、讃美歌を歌いオルガンの音色を聴くことで、生徒たちの感性が養われれば良いと思っています。できるだけ音楽的になるように弾きつつ、ブレスはしっかりと取ります。基本は外さないようにしています。初めて歌う讃美歌の時は、生徒たちがメロディーラインを取りやすいよう工夫して弾くようにしています。また生徒の入退場の曲は、クリスマスなどの教会暦に合わせてたり、コロナ禍の時は心が安らぐ曲にしたり、学校行事や生徒の心の状態を考えて選曲しています。

**内田** 先生方が細かいことに配慮しながら礼拝演奏をしていると伺い、改めて感動しています。私は、オルガンを習いはじめてから演奏を注意深く聴くようになり、武田先生が

おっしゃったことはなんとなく感じていました。自分が礼拝演奏をする立場になって初めて、先生方のご苦労が見えてきた気がします。

### 「音の記憶」が引き出す 英和生共通の情景、思い出

**三原** 東洋英和での日々を振り返ると、毎朝の礼拝で神様や自分と静かに対話する時間を持てたことが大きかったと思います。10代の多感な時期に、パイプオルガンの音色や牧師先生や先生方の話に静かに耳を傾けることで、揺るぎない自分の軸を養えたように思います。

**今井** 東洋英和にはオルガン科だけでなく、ピアノ科、器楽科、ハンドベル部、合唱部などがあります。多様な立場の生徒が、神様をたたえるという同じ目的に向かって共に音楽



大学の合格発表で喜ぶ三原麻里先生(右)、東洋英和のお友達がついてきてくれました

を奏でる環境は、東洋英和が誇れるものだと思います。約3年前、楓の会主催「パイプオルガン・ソプラノコンサート」でハレルヤコーラスの伴奏をした時は、合唱とパイプオルガンが相まって、鍵盤を弾きながら感動を覚えました。大講堂の音響も素晴らしい、この空間で礼拝を受け、音楽を表現できる生徒たちは幸せだと感じました。

**武田** パイプオルガンがあり、その音色を大講堂の豊かな響きのなかで聴きながら礼拝を受けられる環境はほんとうに贅沢だと思います。ただ東洋英和の礼拝の素晴らしさに気付くのは、卒業してからだと多くの卒業生が口を揃えて言います。であればなおさら、在学中の限りある時間でパイプオルガンの音色を聴いて味わってもらい、キリスト教の精神を育ててほしい。そう願いながら礼拝演奏をしています。

**内田** 東洋英和の礼拝を素晴らしいと感じる理由の一つは、やはりパイプオルガンだと思います。高等部を卒業してまだ2年ほどですが、ほかの卒業生の方々と同じく、パイプオルガンの生の音、演奏を聴ける東洋英和での日々はかけがえのない時間だったと感じます。



パイプオルガン用の靴。  
靴底が革になっています

**今井** 時間が経っても、その空間に入った瞬間当時の自分に戻ることができる。自分がそこで何を考え、どんな日々を過ごしていたかを思い出すことができる。そんな空間は何物にも代えがたいですね。

**三原** パイプオルガンとは直接関係ありませんが、私の結婚式に河野先生をお招きし、先生の指揮で同級生が校歌を歌ってくれたのです。その時同級生たちが校歌を歌いながら号泣して……、東洋英和を知らない方々には異様な光景でしようが(笑)、音楽によって心の奥にしまわれていた記憶が引き出され、みんなが同じ情景を思い出していたのだろうと思います。

**武田** パイプオルガンは小編成の合唱の伴奏もできますし、ハンドベルやクリスマスマスのハレルヤコーラス、オーケストラとのコラボレーションなど、さまざまな生かし方があります。多くの方々のご寄付によるパイプオルガンを、これからも東洋英和のキリスト教育、音楽教育に生かしていきたいと思っています。

## パイプオルガンがある日常

大学にある礼拝堂は、講義棟と図書館、事務・食堂棟に囲まれた、キャンパスの中心にあります。昼休みの礼拝には、チャペル内だけでなく、窓からこぼれるパイプオルガンの調べも、学生一人ひとりにかすかに届いていくのです。礼拝奏業者は、大学オルガニストの武田ゆり先生、そして先生からご指導を受ける、「礼拝奏業者」養成のための「オルガン講習会」受講生たちです。「かえで祭」や「卒業礼拝」でのコンサートには、学生や教職員だけでなく、「ご家族もお越しになります。」

毎年開催される「チャペルコンサート」にはプロの演奏家をお招きしてきました。コロナ禍でのオンライン開催を経て、昨秋には、地域の皆さまやお子さまに再び「英和のパイプオルガンの音色をお届けすることができました。」

大学のキリスト教教育を支えてきたオルガンは、奉獻30周年を迎えました。日々の礼拝の奏楽と賛美の声によって、深く熟成されたチャペルの空間に、オーバーホールを終えたパイプオルガンがこれからも美しく響くことでしょう。



今年で奉獻30周年を迎えた大学のパイプオルガン。  
1993年12月完成。アメリカのノアック社製

曲にこめられた意味や情景をあらわす絵画を壁に映しながらの解説付きで、パイプオルガンの音色を鑑賞するレクチャーコンサートの様子



## INTERVIEW

### 八尾 れんげさん

小学部から東洋英和で学び、現在、東洋英和女学院大学人間科学部保育子ども学科の3年生。礼拝奏楽を担当する学生を養成する「オルガン講習会」を受講し、腕を磨いています。



めて礼拝やパイプオルガンの音色に触れる人もいます。だからこそ、私が礼拝奏楽していることを知った友だちが、誘い合って足を運んでくれたときはとても嬉しかったです。自分の演奏に耳を傾けてくれる人がいると思うと力が湧いてきて、パイプオルガンをやっていて良かったと思った瞬間でした。

東洋英和では音楽に触れる機会が多く、私も音楽を通してさまざまなことを学び、成長してきたと思います。キリスト教の教えについても、讃美歌などの音楽を通して学ぶことで自然に身についたように思います。将来は、先生方が教えてくださった音楽の楽しさ、素晴らしさを、今度は私が子どもたちに伝えていきたいです。

オルガン講習会の受講を希望したのは、入学式が終わった直後。高等部の音楽の授業でお世話になった武田ゆり先生のレッスンを受けられると知り、迷わず参加しました。実は小学部5・6年生でもオルガンを習いましたが、時が経ち、パイプオルガンの魅力を再確認しています。特に、オンラインだった礼拝が2年次に対面礼拝になってからは、生演奏で練習の成果を披露できる場があることに幸せを感じています。

私にとって、パイプオルガンは希望を象徴する楽器です。最初の記憶は小学部の入学式ですが、人生の大切な節目の式典にはパイプオルガンの音色があり、新しく始まる生活への期待、希望を抱かせてくれました。悩んだり落ち込んだりすることがあっても、美しい音色はいつも私を勇気づけ、力を与えてくれます。

大学の同級生は多様なバックグラウンドを持っており、東洋英和に入学して初



小学部時代。小学部のパイプオルガンの前で



武田ゆり先生とのレッスンの様子



卒業礼拝第1部ではパイプオルガンによる奏楽、ハンドベル部・聖歌隊の学生による賛美奉献が行われました



卒業礼拝第2部の4年生の卒業を祝うコンサートで行われたパイプオルガンの演奏

パイプオルガン奉獻30周年に寄せて



河野 和雄先生  
(元中高部音楽科教諭  
元学院オルガニスト)

東洋英和女学院初の  
記念すべきパイプオルガン

大学にある礼拝堂に学院初のパイプオルガンが設置されたのは1993年12月。アメリカのノアック社製で17の音色（ストップ）を備えています。楽器の特徴

の一つが通常の電動式に加えて手動式送風装置が併設されていることです。これは契約時の仕様にはありませんでしたが、後にノアック社の費用負担で追加したとの提案を受けて設置されました。モーターによる完全に安定した風より微妙に変化する手動送風の方が、古典期のオルガン作品においては当時の演奏により近い味わいが望めます。また学生が送風作業を体験できるという教育的意義もあります。導入時の印象的な出来事は、当初予定されていた西側壁面の

丸窓（薔薇窓）がより適切なオルガン設計のため断念されたこと、また組み立て時に百数十キロある精密に作られた演奏台を2階ギャラリーにかけた梯子に沿って人力で引き上げたことです。上がった瞬間、居合わせた人たちから拍手が起りました。千本以上あるパイプの音は1本ずつ手作業で音量、音色をノアック氏により調整されました。完成した楽器の引き渡し式ではノアック氏からこのオルガン制作に関わった十数名のサインが記されたプレートが贈られ、

オルガン背面に取り付けられました。東洋英和にはオルガニストとして活躍する卒業生が多数います。小学部から大学までの各課程で専門の講師によるオルガン講座があります。パイプオルガンの響きに触れ、音楽的な興味だけでなく楽器の仕組みにも関心を持ち、将来オルガン制作を目指す人が現れることを期待しています。



ノアック社から贈られたプレート

TOPICS

生涯学習の中でのパイプオルガン

地域に開かれた大学ならではの活動として生涯学習センターのパイプオルガン講座があります。パイプオルガンを実際に弾いてみたいという初心者向けの講座や、すでに教会で奏楽に携わっている方を対象に技術の向上を目的とした講座など、多彩なクラスを開講しています。生涯学習センター主催コンサートで成果を披露する機会もあります。受講生の中には、まだ六本木校地にパイプオルガンが設置されていない頃の卒業生もいます。在校中に大学のオルガン科受験を目指す友人に楽譜を見せてもらい、その譜面の複雑さに一体どんな音色になるのだろうかとか興味をもち、仕事と子育てが落ち着いた後に思い切っておオルガンを習い始めたそうです。

INFORMATION

“PRE!” 東洋英和女学院創立140周年記念オルガンコンサート

今号の「楓園」では、東洋英和のパイプオルガンが学校教育の中でどのように生かされているかを特集いただきましたが、誌面ではお伝えすることができなかったオルガンの音色を皆さまに生で聞いていただきたく、コンサートを企画しました。出演者は特集の中に登場したオルガニストたちです。国内外で活躍するオルガニストの演奏をどうぞお楽しみください。

どなたでもご来場いただけます。申し込み方法などは東洋英和女学院ホームページをご覧ください。

日時: 2023年11月18日(土)  
開場: 13時00分  
開演: 13時30分  
会場: 東洋英和女学院中高部  
新マーガレット・クレイグ記念講堂  
入場料: 無料  
問合せ先: E-Mail koho@toyoeiwa.ac.jp

QRコードより  
お申し込みください。



# From the Garden of Kaede

～ 日常 ～

が少しずつ戻ってきた 小学部



全校礼拝ができるようになりました



久しぶりの学年球技大会。  
保護者の参観もできました



マスクを取って遊んでもいいんだよ!



みんなで知恵を出し合って、作戦タイム! (親子討論会)



声をオルガンの音にのせて、  
神様への感謝を響かせます (聖歌隊)

ことばは人を幸せにするもの  
—美しいことばの担い手となるために—

廣松 梨紗  
(2023年3月まで小学部教諭)

**ど**の学年でも「ことばを大切に、ことばは人を幸せにするもの」というモットーを大切にし、日々の国語の授業を通じて、子どもたちにも伝えてきました。ことばは人と人を繋ぐことができ、幸せを生む力があると私は思っています。ことばは人間を作っているともいえるでしょう。

人と人を繋ぐコミュニケーションにおいて、自分のことばで自分なりに伝えることが大切であると私は考えます。現在の子どもたちはコロナ禍を経て、表現力を発揮する場が足りないと感じており、マスク生活に慣れてお互いの表情が見えにくくなった今、顔を合わせてことばを交わし合うことの重要性を痛感しました。コロナ禍で学校も休校となり、友達と会えない日々、そして学校が再開しても友達と距離をとって



親子討論会を通して、自分のことばで思いを伝える



父の会による事前アドバイスをいただく会

過(そう)と気を付ける毎日、授業の中で話し合い活動が制限され、本来的なことばの力を存分にいかすことができない時間を過ごすこと、子どもたちの今あることばの力を使って「表現」する活動を多くしようと思いました。その中で、論理的な思考も重視しました。伝えるためにはまず「ことば」を知り、自分の意見を持つことが大切です。どんなに拙いことばでも気持ちを込めて伝えようとすれば、相手には必ず伝わるのです。

子どもたちは、はじめ「書く」ことについて苦手意識・面倒な印象を持っていましたが、授業で書く活動を多く取り入れ、今となっては短時間で立派な文章が書けるようになりました。頭を悩ませる時も大切に、書いた作品を読む時間は、各々の世界に入りこめる充実した時間となります。各々自分のことばで一生懸命に表現するので、その子の人となり、感じ方を知ることができて非常に嬉しいものです。それが個性であり、神様から

いただいた賜物なのです。

また、表現活動について、「討論」にも力を入れてきました。小学部では6年生で自分の親と討論をする「親子討論会」という行事があり、社会問題等をテーマとして、親

子で議論を交わします。この行事に向けて、「国語表現」と題し、論理的な思考、伝え方について授業を行いました。ミニ討論で意見を交わし、相手を納得させるには、感情で発言しないこと、多面的に物事を見ること、論を支えるデータを探す力などを学びました。

また、親子討論会に向けての準備は父の会のサポートがあり、多くの人に支えられながら進めます。事前授業として「討論とは何か」のレクチャー、子どもたちの準備にアドバイスをいただく会と手厚いサポートをしていただき、多くの気付きを得る機会がありました。

当日は、グループで調べて準備してきたことを、体全体を使って存分に伝える姿が見られました。自分の考えを伝えることが苦手な子どもも立ちますが、グループで論を組み立てていくことで、自信を持って伝える姿が見られ、思いをことばで伝え合う楽しさを感じていました。

2022年度親子討論会を終えて  
子どもたちの感想

・相手に伝えることが選びに苦労しました。討論を通して、自分では見ることのできなかつた視点から物事を見ることで、新しいことに気付くことができました。

・グループの中で自分にはない発想を知ることができました。テーマに

ついて肯定否定で意見を戦わせながらも、社会をよりよくするという目標を全員が持っていることに気付きました。

・討論とは生きていくうえで欠かせないことです。人はいつだって誰かとぶつかって生きていくけれど、武力ではなくことばの力で解決していくことは、今までも、そしてこれからも大切なことだと思いました。

相手がいることに感謝し、論を交わす。自分たちの考えをどのように相手に納得してもらおうか考え、論を組み立てる。どのことばを使えばわかりやすく伝えられるのか仲間と議論する。その過程一つひとつが子どもたちのことばの力を育てていくのだと感じます。

残念ながら現代社会ではことばで人を傷つけることが起こっています。しかし、ことばは感情を伝えるためだけではなく、人を幸せで嬉しい気持ちにさせるためにあり、嫌なことでもことばを選んで伝えることが大切だと考えます。また、SNSが子どもたちの生活に当たり前のものとなった今、これまで以上に自分の発することばを大切に、そして責任を持つ必要があります。これからの人生、小学部で学んだことばの力を存分に発揮してほしいと願っています。また、自分のことばで人を幸せにできる人となりますように――。

お姉さんたちと遊んだ日

担任 松下有希

コロナ禍で保育を始めてから3年。お弁当は静かに食べる、

保育者はマスクをつけている、そんなことが当たり前になってきている年中組(4歳児)の子どもたちです。保護者と一緒に公園に園外保育に行ったことはありますが、なかなか集団で幼稚園外へ遊びに行く機会を持つことができませんでした。少しコロナも落ち着いてきたので、そろそろ近所に散歩に出かけたいと思っていたところタイミング良く、高等部の先生から「高校3年生のお姉さんたちと遊びませんか」とお誘いいただきました。中高部へ遊びに行くこととなりました。

2月上旬、子どもたちに今日は高校3年生のお姉さんたちが迎えに来て、いつも勉強している中高部に連れて行ってくれるということをお伝えしました。途端、子どもたちは飛び上がって大喜び。普段でしたら大人と一緒にではないと出ていけない門の外に行けること、お姉さんたちと遊べることに、行ったことのない場所までこせること、どれもこれもが特別で



手をつないで中高部へお出かけ

した。園庭に現れた制服姿の背の高いお姉さんたちに緊張した面持ちは見せていたものの、お姉さんたちと手をつなぎながらうれしそうに道を歩いていきました。小さな背丈に合わせて、腰を屈めて子どもと同じ目線で歩いてくださるお姉さんたちに、すぐに親しみを覚えたようでした。中高部の門から入り、建物内を横切り、テニスコートに出ました。授業で使われていない一面をお借りして、子どもたちが最近大好きなドロケイが早速始まりました。警察役を選ぶ子どもも多く、お姉さんたちはほとんど泥棒役。開始早々、牢屋(警察にタッチされたら泥棒が行くスペース)にはどどんお姉さんたちが入ることに。一度水飲み休憩になった際、お姉さんが息を切らして、「この後何して遊ぶ?」と子どもに聞き、「もう一回ドロケイ!」との返事を聞いて、「あ、エンドレスね……」と笑っていました。役割を交替し、延々と

ドロケイを楽しみ、汗をかいていました。また、テニスコートの横にたっているガネットハウス鳥居坂前には木立に水仙の咲く、自然豊かな素敵な小径があります。そこにも入らせてもらい、探検をしたり、かくれんぼをしたりして楽しむ人たちもいました。かくれんぼは隠れる範囲を決めていなかったために、お姉さんたちを困らせることになってしまいました。優しいお姉さんたちとしばらく思い思いに遊んだ後、もう1つ特別な事が待っていました。授業中の校舎内に入り、中央階段を上がって、景色の良い所まで連れていってくれるというのです。高3の上野貴子先生の案内で、お姉さんたちに再び手をつないでもらい、「しーっ!」と声を潜めながら、自分たちの足で6階まで目指します。途中「つかれた」という小声の呟きは聞こえましたが、手を握るお姉さんたちに励まされ、最上階に到着しました。晴れていれば富士山が見えるという大きな大きなガラス張りの窓に張り付いて、先ほどまで遊んでいたテニスコートを見下ろし、終始好奇心旺盛な子どもたちでした。

最後に、中高生が礼拝をしている大講堂を見せていただきました。見るだけに留まらず、なんと壇上に上がり、大きな椅子に座り、マイクを前に立ち、さまざまな場所を見学させてもらいました。お姉さんたちに幼稚園の庭まで送ってもらった子どもたちは、笑顔で手を振り、ありがとうとお礼をし、ある子どもは手を離さず保育室前までお姉さんを引っ張り、楽しい時間が終わってしまふことを名残惜しそうにしていました。「とにかく広かった」「お姉さんたちがみんな同じ服着ていた」「お姉さんたちと遊べて楽しかった」「また遊びたい」と満足そうな感想が出てきました。翌日以降には、保護者の方を通して、お姉さんたちと遊んだことを家でも話していたことを聞きました。



「お姉さん速い! まってー!」



私たちの「奉仕」は何に  
基づいているのだろうか？

聖書科教諭・YWCA顧問 朴洙美

YWCAの活動時間である金曜日の放課後には、YWCAの他にも、奉仕活動を通じてさまざまな形で社会に貢献する団体（東洋英和コーヒープロジェクト、Eiwa for Ukraine（生徒会）、TEAMなど）が増えてきました。英和生として各団体の「奉仕」活動は何に基づいているのだろうか、「敬神」とつながっているのだろうか、かを意識し、学院標語の意味を再確認する目的で「敬神奉仕の集い」を始めました。



敬神奉仕の集いに参加した各団体

この集いは各団体の高校2年生が企画し、実施に当たっては準備会を重ねました。講師の先生とZOOMで打ち合わせを行い、それぞれの役割やディスカッションテーマや全体の流れを決めていきました。当日のプログラムは「礼拝、講師の先生の講演、各グループに分かれてのディスカッション、各グループによる発表と講師への質問、講師からのまとめ、祈り」で進められ、



各団体の高校2年生



グループ活動

2022年度は次の6回の集いを行いました。※第5回は礼拝形式

・第1回 2022年5月27日(金)

講師：関野和寛牧師(日本福音ルーテル津田沼教会牧師・元コロナ病棟(アメリカ)チャプレン)、講演内容：コロナ病棟での先生の体験(生徒の印象に残った言葉の一つ：死を前にしている人に何ができますか)

・第2回 2022年6月17日(金)

講師：塩谷直也牧師(青山学院大学宗教部長・法学部教授)、講演内容：教諭の働きについて、生徒の印象に残った言葉の一つ：人に助けを求めることができなかったことで犯罪を犯してしまっ人がたくさんいる

・第3回 2022年7月8日(金)

講師：小久保康之先生(東洋英和女学院大学国際政治学教授)、講演内容：ウクライナ戦争について、生徒の印象に



小久保康之先生の講演の様子



グループを回ってくださる関野和寛牧師

残った言葉の一つ：戦争は力を持った人の感情に左右されることが多い(私たちの人間関係における喧嘩と変わらない)

・礼拝報告

2022年10月28日(金)

第1回〜第3回の活動報告※中高部ホームページに掲載  
お話：池田茉央(YWCA会長)、小林さくら(生徒会会計)原稿、スライド作成：池田茉央(YWCA会長)、村上言衣(YWCA副会長)、秋山素子(生徒会長)、小林さくら(生徒会会計)、安藤光咲(TEAM会長)、奏楽：古宮菜里奈

・第4回 2022年10月28日(金)  
講師：内田治代先生、日下部優衣先生(社会福祉法人興望館)、講演内容：興望館の歴史(東洋英和との関わり)と地域社会の課題、生徒の印象に残った言葉の一つ：ボランティアは与えるものではなく、共に学び合うこと

・第5回 2022年12月9日(金)  
「クリスマスキャンドルサービス」お話し：山本香織先生(前小学部部長)、

ハンドベルの前奏、合唱部による奉唱、参加者：約210名  
・第6回 2023年1月20日(金)  
講師：山下朋和氏(社会福祉法人めだかすとりいむ(すいーつはたけ)所長)、講演内容：めだかすとりいむの理念と活動、生徒の印象に残った言葉の一つ：障がいのある人が作ったから買うのではなく美味しいから買ってほしいです

「祈り」は敬神奉仕の実践の一つである！

生徒たちは講演に共通する一つのキーワードに気づきました。それは「祈り」でした。そして英和生として奉仕活動に欠かせないのは、「祈り」であることを認識することができました。「敬神奉仕の集い」を通して、神様を愛することは神様を信じて祈ること、「祈り」こそ、神様とつながりつつ、人の苦しみや悲しみを共感する敬神奉仕の実践の一つであることを生徒が学ぶ機会となりました。

天にいらっしやいます父なる神様。今日も新しい朝をありがとうございます。敬神奉仕の集いを通して東洋英和の建学精神である敬神奉仕を再確認する場を持ってごに感謝します。神様に祈ることによって、私達は自分自身に向き合ったり、他の人のことを考えたりすることができ、また、奉仕はその祈りと日々の学びから生まれるということを中心に留めて過ごすことができますように。  
世界中で苦しみや悲しみを抱えている人に私達以上のお恵みをお与えください。今日一日の学びもお守りください。このお祈りを主イエス・キリストの御名によっておさげいたします。アーメン

礼拝報告での生徒の祈りの言葉

少人数制の伝統校で  
「保育」を学ぶ  
—ゼミ活動から

人間科学部 保育子ども学科 准教授  
塩崎 美穂

3年生のゼミ合宿  
—何気ないおしゃべりのなかで  
他者と出会う

パ  
ンデミックへの感染対応が始ま

った春に入学してきた3年生ミ生に「ゼミで何がしたい?」と何気なく尋ねると、「おしゃべりがしたい」というつぶやきが聞こえてきました。私が欧米の保育思想研究をしていることもあり、海外で学んでみたいと思うゼミ生がたくさんいます。短期留学などを希望し、自分とは異なる文化的背景をもつ人と関わることを好む好奇心旺盛な学生が「友人とのたわいのないおしゃべり」をこそしたいというささやかな願いをもっていることに気づき、私は何としてもゼミ生の期待に応えたいと思いました。

そこで、少し感覚がおさまっていた12月半ば、卒論検討会を泊りがけでしてみることを企画しました。大学の所在地周辺にある日本の古民家を利用した宿泊施設「飯田屋」(主な利用者は外国人)に泊まることを通して、日本の文化がどのように諸外国に伝えられているか、また何を海外の

人が「日本的なもの」として認識しているのかを体験的に学びました。それは、美しい日本庭園のある宿で、自分たちの文化を紹介しながら諸外国からの訪問客を迎える際に必要なコツや視点を、ゼミ生同士で共有するたのしい時間にもなりました。

自分とは異なる他者の意見に出会い自分の考えを述べるというアクティブラーニング(対話的な深い学び)の基盤は、日々の「たわいのないおしゃべり」にあります。気負い過ぎることなく自分とはちがう感じ方に触れ、自分のものの考え方の傾向に気づいていくことは、とりわけ青年期の学習者にとって大切だと考えられます。大學生らしい友人感覚が今こそ必要であることを、10名前後という少人数のゼミ生同士でお茶を飲み、笑いながら話し続けるゼミ生たちを見て痛感しました。大学時代に獲得する知性の基盤として「おしゃべりのひととき」に意義を感じる時間でした。



宿泊先の日本庭園で

4年生のゼミ合宿  
—被災地熊本での保育体験

4  
年生もまた、「保育の場に参加して学ぶ」といった直接体験が少ない学年でした。私は現役の保育者との共同研究の機会に恵ま

れていますが、その際、保育者の「ものの見方(哲学)」が形成される過程において、その人が「学生時代」にどんな保育の場にかかわったのかが少なくない影響を与えていると感じてきました。卒業後、保育者として活躍するゼミ生が、幅(「溜め」)のある実践者としてのしく保育を創造していくためには、「保育がつくられるプロセスそのもの」に学生のうちに参加することが重要だと考えられます。実習生として指導される立場としてだけではなく、保育者と子どもとともに保育内容を企画し、準備に加わり実践し、その振り返りを保育者とともに行う一連の「保育の創造プロセス」を、たとえコロナ禍でも(というより「ウィズコロナ」に備えるためにも)、「ゼミ生には必要だと考えました。

そこで、熊本震災時、園が私設避難所を開設し、地域の親子の生活の拠点となったやまなみこども園に宿泊することを通して、保育施設の災害時の役割を考える体験学習を企画しました。実際に園を訪問し、たと

えば、3歳児の散歩に学生も一緒に出かけました。それは、近くの江津湖に立ち寄り、湖に散歩でしたが、そこで子どもたちは全身緑色の「ホンモノの河童」(男性保育者の変装ですが)に出会ったのです。学生たちは、3歳の子ども以上に河童の登場に驚きつつ、初夏の気持ちのよい自然の中で、子どもを育ちをたのしくつくりだす「保育」に参加することができました。

いまや保育者は、私たち社会にとって欠くことのできない存在です。災害時も、嚴重な感染対策が必要な時も、医師や行政官などの保護者の労働を可能にし、たのしい保育をつくり出す保育者が必要です。ますます不確実なことが多くなる社会状況の中で、保育を学ぶ学生には、仲間とともに学ぶ実体験が必要だと思われまます。本学であれば、少人数のゼミ活動の中で、欠くことのできない直接的な学びが可能です。少人数制の伝統校で「保育」を学ぶ意義を痛感したゼミ活動でした。



散歩先で出会った河童についてみんなでおしゃべり

# 大学付属かえで幼稚園のキリスト教教育

神さまとイエスさまに愛されて育つ  
自分らしさをもって生きる  
他者とともに生きる

今年、創立 50 周年を迎えた大学付属かえで幼稚園。

美しが丘（横浜市青葉区）の地で子どもたちとともに生き、創立以来キリスト教を基盤とする保育を行っています。楽しい日々の中で、園児の心には生涯を支える確かな根っこが生まれていきます。

今回は幼稚園の歴史、礼拝や園の様子、地域の方と守る「美しが丘礼拝」などをご紹介します。



年中組の学期末の終業礼拝を親子で守りました



子どもの祈り

## 礼拝を大切に守る生活

子どもたちは週に1回、学年ごまたは組ごとに聖書のお話を聞く礼拝を大切に守っています。礼拝の時間の前には、子どもたちがホールに椅子を並べて準備します。礼拝の中で子どもたちは、喜んで讃美歌を歌い、お話を聞き、祈ります。担任を通して語られる神さまの愛や、イエスさまのお言葉が、子どもたちの安心と希望を支えていると信じます。3歳・4歳・5歳……成長に従い、聖書のみことばは、子どもの記憶に残っています。そのひとつが、「敬神奉仕」の中心聖句である「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」「隣人を自分のように愛しなさい」（マルコによる福音書 12 章 30 節・31 節より）で、礼拝の中でくりかえしともに口にしています。

## かえで幼稚園のキリスト教保育の歴史

かえで幼稚園は、カナダ婦人宣教師であられたスクルトン先生（1925年東洋英和女学校就任／1950～1958年短期大学保育科教授）とハミルトン先生（1918年東洋英和女学校就任／1951～1956年短期大学保育科初代主任）が切望された「短期大学直属の幼稚園設立」への思いを、長野彌元院長が受け止められ、多くの方のお祈りとご尽力をいただいて1973年に創立しました。創立から50周年を迎えた本年まで、「東洋英和のキリスト教保育を幼子のために捧げること」と、「保育者を目指す学生（実習生）と学び合うこと」の継承に努め、キリスト教を基盤とした生活の中で、礼拝と子どもたちの遊びを大切にしています。



大学の実習生も子どもたちとともに礼拝を守ります



1. かえでホッケーの熱いゲーム
2. 年長組はカメのジョイとミドリのお世話をしています
3. 憧れていた木工室で木工をする年少組
4. ホールの積み木のおばけやしき
5. レスキュー隊ごっこをしています

## 愛されて遊ぶ

かえで幼稚園の春夏秋冬には、神さまとイエスさまに愛され幸せな幼児期が守られ、いきいきと遊ぶ子どもたちの姿があります。庭にも、保育室にも、ホールにも、木工室にも、何種類もの遊びが共存し、一つひとつが豊かに展開しています。子どもたちは、主体性をもって遊びに取り組み、ものと関わり、人とつながって過ごしています。また遊びながら、光や風、四季折々の自然に触れ、神さまの創られた世界の美しさやおもしろさや不思議さを感じています。



## 卒業していく子どもたちへ、保護者へ、 地域の方々へとつながるイエスさまのメッセージ

かえで幼稚園の子どもたちのほとんどが、地域の公立小学校へと進みます。5歳児は、毎年1月に園からの卒業記念品としての聖書を受け取ります。子どもたちは、卒業まで礼拝には必ず聖書を携えて参加し、保育者とともに聖書箇所を開きます。また、卒業後、園でのクリスマスやイースターにその聖書を持って戻ってきます。2022年12月、長年の願いであった地域の方に向けての「美しが丘のクリスマスの夕べ」を実現し、幼子から大人まで170名がともに集い、礼拝を守ることができました。長年キリスト教教育の教鞭をとられてきた、東洋英和女学院大学名誉教授の吉岡良昌先生がご奉仕くださり、その続きとして月1回第3土曜日の午後「美しが丘礼拝」と称して、どなたでもご参加いただける地域に向けての礼拝を始め、吉岡先生からメッセージをいただいています。

卒業生や保護者、地域の方などさまざまな方が、礼拝を通して聖書に出会い、神さまの愛に触れる時間を過ごすこの礼拝を、地域に根ざしたキリスト教教育の場に与えられた使命と信じ、祈りながら続けていきたいと思っています。

「美しが丘のクリスマスの夕べ」でのキャンドルサービス。ろうそくの火を隣へとつないでいき、温かな光がホールに広がりました



美しが丘礼拝

# 教員紹介

—先生が心理学の道に進んだ経緯を教えてください。

人間の心に関心はありましたが、学校の先生になるのが夢でした。大学では教育学と教育心理学の2つを学び、最終的に心理学の道に進みました。教授や先輩には「人間理解のために幅広いことを学びなさい」と言われ、専攻とは関係ない英文学や哲学などの講義も受け、興味の赴くままに学びました。臨床の現場に出てからも、1つのことを極めるのではなく、与えられた役割を果たしながら経験を積み重ねてきたと思います。

—どんな研究をされていますか？

英語でセラピー・サイコセラピーと呼ばれる心理療法について研究しています。心理療法にはさまざまな種類があり、患者さんと一対一で話をする面接（カウンセリング）だけでなく、遊びを通じた子ども心理療法であるプレイセラピー、箱庭療法、夢分析など言葉を介さないものもあります。実務家として臨床の現場にも出ており、思春期・青年期の心理支援だけでなく、成人・親の面接もずっと続けています。

—心理学の領域における東洋英和女学院大学・大学院の優れた点は？

大学では、リベラルアーツとしての心理学と、臨床心理士、公認心理師資格を取得しカウンセラーになる

## Kazuko Kosaka

心理学の視点で身近なことを見る面白さ

### ▶▶▶ 同僚からのメッセージ



人間科学部 人間科学科  
渡部 麻美 教授

いつもあたたかい笑顔で我々を支えてくださる先生です。小坂先生のやさしいお人柄に憧れて心理学専攻に進む学生も少なくありません。箱庭やカウンセリングだけでなく、プリンセスやBTSまで取り上げる出張授業は高校生にも人気です。生涯学習センターの講座も担当されますので、ぜひ社会人の方にも先生の授業を体験していただきたいです。



### 大学

人間科学部 人間科学科  
小坂 和子 教授

京都大学教育学部に進み、教育心理学を修める。同大学院（修士、博士後期課程）で臨床心理学を専攻。修士（教育学）。臨床心理士・公認心理師。1998年4月に本学着任。いつも音楽と本がそばにあります。きく、よむ、奏でる、歌う、そして感じる！パイプオルガンの調べも大好きです。



英和から巣立っていった皆さんの一生に一度の「卒業論文」です

ための心理学の両方を学ぶことができます。学部を卒業後すぐ大学院へ進学し、豊富な実習を経て、専門家を目指してもいいですし、学部で修得した公認心理師資格の科目は一生有効ですから、会社勤めや子育てが落ち着いてから大学院に進学することもできます。なお、学部の卒業生であれば入学金は免除されます。いくつになっても、学びたいタイミングで大学院に進学し、カウンセラーになる道が開かれています。

—心理学の道を志す人にメッセージをお願いします。

当たり前のことのようですが、目の前にいる一人ひとりを大切にしたいです。この姿勢は、ミッションスクールで心理学を学ぶ意義であり、心理支援を行ううえでもっとも大切なことでもあります。また身近なことを心理学の視点で見ると、多くの発見があります。私が担当する科目「文化とモードの深層心理」では、ファッションや音楽の視点から心理学を学びますが、昨年のオープンキャンパス（模擬授業）でBTSの曲の歌詞を取り上げたところ、高校生が興味を持って参加してくれました。私も、最初から心理学一直線だったわけではありません。心理を入口に幅広いことを学びながら、自分の興味のあるテーマを見つけていってください。

—幼稚園教諭になった理由を教えてください。

もともと趣味が多く、絵を描くことや歌うこと、身体を動かすことも好きで、好きなことが全部できると母に薦められたのが幼稚園教諭でした。実は、母も祖母も東洋英和の卒業生で、2人とも幼稚園教諭です。私自身も毎週通っていた教会学校で子どもたちと接するのが好きだったこともあり、キリスト教保育を学びたいと東洋英和女学院大学へ進学して今に至ります。

—子どもたちと接する時に大切にしていることはありますか。

子どもの面白い表現や遊びを見落とさないようにしています。また、先生として教えるというよりも、子どもたちと私も一緒に成長していけるような関わり方をしたいと思っています。自分の話に熱中している子どもには相手の話を聞くよう促したり、声は小さいけれど良いアイデアを持っている子の声を拾い上げたりと、子どもと子どもの架け橋になれるよう心掛けています。

—どのような時に子どもたちの成長を感じますか。

先日はグループで一つの表現を作り上げ、できた表現を見せ合いっこする表現あそびを行いました。完成させる過程で、年長のクラスでは自分の意見を言うだけでなく、相手の意見に耳を傾けたり譲り合ったりと、子ど

# Yuki Matsushita

日常の保育で子どもたちの自主性を養う

## ▶▶▶ 同僚からのメッセージ



東洋英和幼稚園  
宮坂 里奈 教諭

松下先生は多才な方です。手芸、植物、わらべうた、美味しい食べ物巡り、アイリッシュハーブなど趣味も多く、子どもたちのつぶやきや好きな絵本から繰り広げられる表現遊びはとても楽しそうです。けん玉やお手玉もお得意なので、その技に憧れた子どもたちが真似をすることもあります。日々子どもたちと過ごす中に先生の賜物が生かされています。



## 東洋英和幼稚園

### 松下 有希 教諭

東洋英和女学院大学人間科学部人間科学科保育子ども専攻にて幼稚園教諭免許状・保育士免許状を取得。2020年より東洋英和幼稚園に着任。現在は年中すずめ組担任。好きなことは歌うこと、踊ること、物を作ること、アイリッシュハーブ。



幻の楽器と呼ばれる金属弦のアイリッシュハーブ。響きが深く癒やされます

もたちが成長していく様子が見られました。その経験が新しい友達関係や積極的に発言する姿勢にもつながり、育ち合う姿がありました。

—保育への姿勢は、東洋英和女学院大学で学んだことが生きていますか。

大学の学びではヨーロッパ研修が特に印象に残っています。壁に人間の臓器模型が飾られていたのですが、それは先生が空き箱などの素材や図鑑を用意して、子どもたちが作り上げたものだと分かりました。子どもの興味や個性を尊重し、自発性や創造力を先生が支えている現場を目の当たりにしたのです。東洋英和幼稚園でも、行事に向けて保育するのではなく、日々の生活や遊びを大切に、その中で子どもたちの自主性や持っている力を伸ばしていきたいと思っています。子どもたちには指示されたからではなく、自分がしたいからする、だから、あきらめず、試行錯誤し、たくましく生きる力を養ってほしいです。

—最後に英和生へのメッセージをお願いします。

東洋英和は、神様の愛にあふれたあたたかい環境です。何か困った時、悲しいことがあった時、嬉しい時、楽しい時、どんなことでも共有できる一生の仲間ができるかもしれません。素敵な友人に恵まれる英和生活を送れることを心から願っています。

英和生の活躍、ご紹介します！

## 「馬の力」がかなえる幸せな社会



### 小日向 素子

1988年高等部卒業、国際基督教大学卒業、東洋英和女学院大学大学院修士課程修了。大学卒業後、日本電信電話（現NTT）に入社。外資系IT企業などでマーケティングや新規事業開発などを担当。2016年、馬と一緒に企業研修を提供するCOASを設立。札幌の「ピリカの丘牧場」で、馬の力を借りたオリジナルプログラムを提供している。

**札** 幌中心部からほど近い場所  
にありながら、豊かな自然に囲まれた「ピリカの丘牧場」。

この牧場で小日向さんが行っているのは、馬を相手にマネジメントやリーダーシップについて学ぶホースコーチング。聞き馴染みがないかもしれませんが、欧米では歴史があり、優れた人材育成の手法として知られています。

もともと外資系企業のマーケティング責任者だった彼女。仕事にまい進し成果を上げていきましたが、どこか満たされない思いがあり、リーダーでありながら他者と信頼関係を築くのが苦手な自分を受け入れられずにいました。転機となったのはリーマンショック。利益追求型の組織やリーダーシップに限界を感じ、独立を決心します。

ただ独立したものの、自分が何

を好きなのか、何をしたいのかわからない……。本が好きだったためブックラウンジを経営してみるのが、満たされることはありませんでした。そこで日本とは全く異なる環境に身を置いてみよう、インドネシアのパニラ農園の支援やカンボジアの地雷原を綿の畑に変える活動を行うNPOのプロジェクトに参加。水洗トイレやお風呂がないところで

自然と向き合いながら農作業をするうち、「企業で働く人たちが自然に触れながら学び直せる場をつくりたい」と思い立ちます。研修施設をつくるなら、自然の循環サイクルを考えたサステイナブルなものにしたいと考えた小日向さん。そのためには畑を耕したり、たい肥を提供してくれる動物が必要だと計画を練っていたとき、東日本大震災が起

こり日本に帰国。国際基督教大学の同窓会が主催する被災地のボランティアに参加したのが縁でホースセラピーを行う牧場を紹介され、そこで馬が持つ力に圧倒されます。優れた五感を持つ馬は、人間の心の機微を敏感に感じ取り同調するミラーリングという特性を持っています。こちらが落ち込んでいるといつも寄ってくる馬が近づいてこないなど、人間が無意識のうちに発する小さなサインをも感じ取り反応するので、嘘や言い訳は通用しません。また群れで行動するソーシャルアニマルである馬は、特定の相手になつくことはなく、誰にでも従う生き物。代わりに、そのときの相手のふるまいに忖度なく反応するため、社会的立場のある経営者であつても、アプローチを間違えると馬は言うことを聞いてくれません。

つまり、馬と触れ合うことでその人のリーダーシップやコミュニケーションの実態がはつきり表れてしまうのです。本人はそうなくやっけているつもりでも、実は馬のことをよく見ていない、間違いを素直に認めないなど、普段の行動の癖やその人の本質が見えてしまう。これこそがホースコーチングの狙いであり、自分では気付かない問題や課題を掘り起こ



し向き合うことで、行動の変容に繋げることができると小日向さんはいいます。「ピリカの丘牧場」のプログラムは、受講生に合わせて内容を変えるオーダーメイド。馬に一切触れずに信頼関係を築いたり、リードをつないで一緒に歩いたりする屋外でのセッションを行い、そこで得た気持ちを屋内のセッションで振り返ります。プログラム

の主役は受講者で、自分の問題や課題と向き合い、答えを見つけるのは受講者自身。彼女ができるのは受講者が安心して自分をさらけ出せる環境づくりであり、馬と

受講生の様子を観察し、気になったことを受講生に伝えるなど、ファシリテーター（支援者）に徹しています。私たちは「こうあるべき」という固定観念に縛られており、そのことが年代や性別に対する無意識のバイアス（偏見）を生み、他者理解を妨げていると小日向さん。彼女が目指すのは、他者を理解し思いやりながら、全ての人が自分らしくいられる社会。コロナ禍によって働き方がさらに多様化し、抱える悩みも複雑になっている今、馬の持つ力が求められています。

は受講者が安心して自分をさらけ出せる環境づくりであり、馬と

受講生の様子を観察し、気になったことを受講生に伝えるなど、ファシリテーター（支援者）に徹しています。

受講生の様子を観察し、気になったことを受講生に伝えるなど、ファシリテーター（支援者）に徹しています。

英和生集まれ!

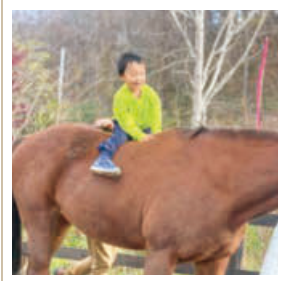
# Maple Mall



馬は全ての人にとって最良のコーチである

## ピリカの丘牧場

小日向 素子(1988年高等部卒、1996年大学院修了)



**住所**  
北海道札幌市西区小別沢  
149-2  
**E-mail**  
info@coashp.com  
**URL**  
https://www.coashp.com

Data



Check!

馬をコーチとする自己内省・行動変容のためのプログラムです。上司部下、家族など人間関係に課題を感じる方。今後のキャリアや自分のあり様を思い直したい方。究極の内省を通じた課題解決をご提供します。

『お花が好き』という気持ちを「形」に

## フラワーネット

藤井 晶子(旧姓井関 1990年高等部卒)



**住所**  
中央区京橋 1-6-13  
**TEL**  
03-6304-3783  
**URL**  
https://www.flownet.co.jp/

Data



Check!

リーズナブルで気軽に、そして無理なくお花を楽しむことができるように!と、フラワースクールを主宰。市場から直送の新鮮なお花で、暮らしを豊かに!生涯学習センターでもフラワー講座を開講しています。

本格スパイスのカレーパンとチャイのお店

## Spicier (スパイシア)

菅原 友希(旧姓熊谷 2002年高等部卒)



**住所**  
新宿区神楽坂 3-2-33  
**Instagram**  
spicier.tokyo

Data



Check!

Spicierのコンセプトは「スパイスで、もっと」。手作り無添加のインドカレーを丸ごと包んだカレーパンと、スパイスたっぷりのチャイで心も体も「もっと」嬉しい気分になっていただきたいという想いが込められています。

日常の食卓を彩る「寄り添うワイン」を紹介

## エス・ブリュッケ

牧野 友光子(2003年高等部卒)



**URL**  
https://s-bruecke.com  
**Instagram**  
s\_bruecke

Data



Check!

「うたかたの恋」「エリザベート」を発端に、オーストリアに魅せられた英和時代。大人になりさまざまな出会いを経て、オーストリアワインの輸入・販売を始めました。和食やエスニックとのペアリングを紹介しています。

「Eiwa Café」がネットで買えるようになりました!

「楓園」の前号(95号)掲載で大好評だった中高部オリジナルの「Eiwa Café」がネットで買えるようになりました!ご希望の方は、ぜひQRコードからお申し込みください。



お申し込みはこちらから▼



東洋英和女学院創立140周年記念

## 「楓アプリ」ができました!



今後はアプリを通して「楓園」のデジタル版などさまざまなお知らせをお届けする予定ですのでぜひダウンロードしてください。

**1** 東洋英和女学院高等部、短期大学、大学院の卒業生および楓の会役員の皆様へ

「楓園」98号(2024年6月発行)より、デジタルで「楓園」が見られるようになります。同封のチラシの通りに「楓アプリ」をスマートフォンにダウンロードしてください。これに伴い、1988年度(1989年3月卒業)以降の卒業生は紙での「楓園」の配信を停止します。1987年度(1988年3月卒業)以前の卒業生は、従来通り紙の「楓園」をお届けします。

**2** 東洋英和女学院大学の卒業生の皆様へ

「楓園」98号(2024年6月発行)デジタル配信とします。楓美会HPの「お知らせ」ページに1月と6月に掲載されるリンクからご覧ください。さまざまな講演会、かえてグッズのお知らせも掲載されています。

楓美会

Q 検索

# 「史料室だより」とは？ — 100号記念につきご案内 —

の5月に「史料室だより」No.100が刊行されました。1977年7月の初刊から46年間、たくさんの方の東洋英和の歴史が紹介されてきました。

しかしながら、「史料室だより」をいろいろな折に英和関係者にお渡しすると、「これは何?」「いつも送っていただいているわ(「楓園」や各同窓会会報と混同)」といったご回答を多く受けます。というのも、「史料室だより」は教職員、60歳以上の同窓生のうちの希望者、同窓会役員、学院役員といった一部の方々にのみ届けられ、あとは学院の各所に設置されているだけなので、なかなかお手に取ってご覧いただく機会がないのです(学院のホームページでは全号閲覧可能です)。

そうしたわけで「史料室だより」は知る人ぞ知るマイナーな冊子なのですが、史料室委員会の先生方と史料室スタッフで毎号の特集記事のアイデアを出し合い、各委員が取材



No.100



No.1

1977年に発行された1号から、今年で100号を迎えた「史料室だより」です。今、お読みになっている「楓園」とは別の冊子ですので、要チェックです!

- 「史料室だより」No.100では、戦後20年以上にわたり東洋英和の院長を務められた長野彌先生を特集しています。全ページ下記のURLもしくは右のQRコードからお読みいただけます。  
<https://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/publications/>
- 史料室TEL:03-3583-3166/FAX:03-3583-3329 ホームページ <https://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/>



## 後援会より

### 2023年3月 後援会・母の会・学院三者懇談会のご報告

2023年3月3日(金)、今年度第2回目の後援会・母の会・学院三者懇談会が開催されました。年2回開催される当会は、コロナ禍の影響により2020年3月以降は中止を余儀なくされましたが、今回は2022年6月の第1回目に続き、対面で懇談の場を持つことができました。後援会常任役員、各母の会会長・副会長、学院各部代表者が参加し、学院各部より最近の教育活動等の紹介が行われた後、和やかに懇談が行われました。



懇談会の様子

## 大学同窓会 楓美会より

### さまざまな講演会を企画し、楓グッズを作成しております!

楓美会は今年創立30周年です。周年行事プロジェクトとして母校の学生、中高部の生徒さんの学びのお役に立てるように、さまざまな講演会やイベントを企画しております。その第一弾として、3月に高等部主催の英和茶会のサポートに参加し、港区・カナダ大使館と連携をとり楓美会の企画により講座を開催しました。各イベントの開催予定と様子、楓グッズについての詳細は楓美会のホームページにて掲載しております。ぜひご覧ください。皆様の参加をお待ちしております。

楓美会ホームページ



楓美会・港区・カナダ大使館共催 連携講座にて

## 学院同窓会より

### 大学院修了の同窓生

東洋英和女学院同窓会においては、現在短期大学の同窓会は休会となり、高等部同窓会東光会と大学院同窓会の2会中心の活動を続けております。

大学院同窓会は2022年度に24名の新しい会員の方をお迎えし、約1000名の会となりました。お仕事を続けながら大学院に通われて、学びを修められた方々が多くいらっしゃいます。

皆さまを敬意をもってお迎えし、ご活躍をお祈りしつつ一緒に活動してまいりたいと思っております。

\*楓園94号の記事について：先の記述は1895年に発足した東洋英和女学校の同窓会から続く歩みを綴ったものです。



学院同窓会・大学院同窓会入会式(大学院学位授与式にて)